

|          |          |          |           |
|----------|----------|----------|-----------|
| 成人看護学方法論 | 2年・後期    | 2単位 30時間 | 教授 片貝智恵 他 |
| 科目カテゴリー  | 看護提供のあり方 | 科目ナンバリング | 33310672  |

## 1. 授業のねらい・概要

学生が、病期ごとの病態と健康障害を知り、人間に及ぼす影響と看護支援を理解できることを目的とする。

学生は、成人期患者の呼吸器系、循環器系、消化器系、血液・造血器系、運動器系、脳神経・感覚器系、腎・泌尿器系、性・生殖器系、アレルギー・膠原病等の急性期（周手術期含む）および慢性期における病態、および健康障害がその人に及ぼす影響、看護支援について理解する。

## 2. 学修の到達目標

1. 急性期、慢性期、周手術期の特徴を述べることができる。（D-2）
2. 急性期、慢性期、周手術期の看護支援について述べることができる。（D-2）
3. 呼吸器系疾患の病態と健康障害が、患者の日常生活に及ぼす影響を述べることができる。（D-2）
4. 呼吸器系疾患患者の、ニーズに応じた看護支援を述べることができる。（D-2）
5. 循環器系疾患の病態と健康障害が、患者の日常生活に及ぼす影響を述べることができる。（D-2）
6. 循環器系疾患患者の、ニーズに応じた看護支援を述べることができる。（D-2）
7. 消化器系疾患の病態と健康障害が、患者の日常生活に及ぼす影響を述べることができる。（D-2）
8. 消化器系疾患患者の、ニーズに応じた看護支援を述べることができる。（D-2）
9. 血液・造血器系疾患の病態と健康障害が、患者の日常生活に及ぼす影響を述べることができる。（D-2）
10. 血液・造血器系疾患患者の、ニーズに応じた看護支援を述べることができる。（D-2）
11. 運動器系疾患の病態と健康障害が、患者の日常生活に及ぼす影響を述べることができる。（D-2）
12. 運動器系疾患患者の、ニーズに応じた看護支援を述べることができる。（D-2）
13. 脳神経・感覚器系疾患の病態と健康障害が、患者の日常生活に及ぼす影響を述べることができる。（D-2）
14. 脳神経・感覚器系疾患患者の、ニーズに応じた看護支援を述べることができる。（D-2）
15. 腎・泌尿器系疾患の病態と健康障害が、患者の日常生活に及ぼす影響を述べることができる。（D-2）
16. 腎・泌尿器系疾患患者の、ニーズに応じた看護支援を述べることができる。（D-2）
17. 性・生殖器系疾患の病態と健康障害が、患者の日常生活に及ぼす影響を述べることができる。（D-2）
18. 性・生殖器系疾患患者の、ニーズに応じた看護支援を述べることができる。（D-2）
19. アレルギー・膠原病疾患患者の病態と健康障害が、患者の日常生活に及ぼす影響を述べることができる。（D-2）
20. アレルギー・膠原病疾患患者の、ニーズに応じた看護支援を述べることができる。（D-2）

### 3. 授業の進め方

テキストに基づく資料を用いた講義を中心に進める。

#### 【アクティブ・ラーニング実施の有無】

アクティブ・ラーニングとして、事前学習型授業、グループワークを用いる。

#### 【ICT活用の有無】

ICTは活用しない。

### 4. 授業計画（講義・演習）

| 回  | 授業内容   | 授業形態     | 事前事後学修（学修課題）  | 担当    |
|----|--|----------|---|-------|
| 1  | 急性期（集中治療含む）、慢性期の特徴と看護支援                        | 講義       | 予習：事前に配布する授業資料を読み、わからない言葉を調べる。<br>復習：急性期のアセスメントと看護をまとめる。                  | 片貝智恵  |
| 2  | 周手術期術前・術中の特徴と看護                                | 講義       | 予習：事前に配布する授業資料を読み、わからない言葉を調べる。<br>復習：術前のアセスメントと看護をまとめる。                   | 片貝    |
| 3  | 周手術期術後の特徴と看護                                   | 講義       | 予習：事前に配布する授業資料を読み、わからない言葉を調べる。<br>復習：授業で配布する練習問題を解き、間違えた問題の要点をまとめる。       | 片貝    |
| 4  | 血液・造血器系疾患患者の病態と看護支援                            | 講義       | 予習：テキスト[4]血液・造血器の血液・造血器系の症状とその成り立ちを調べる。<br>復習：血液・造血器系の症状に対する看護をまとめる。      | 片貝    |
| 5  | 呼吸器系疾患患者の病態と看護支援①                              | 講義       | 予習：テキスト[2]呼吸器の肺がんの病態を読み、わからない言葉を調べる。<br>復習：肺がん周手術期患者のアセスメントと看護をまとめる。      | 片貝    |
| 6  | 呼吸器系疾患患者の病態と看護支援②<br>フィジカルアセスメントと呼吸訓練（事前学習型授業） | 講義<br>演習 | 予習：テキスト[2]呼吸器の呼吸器系の症状とその看護を調べる。<br>復習：授業で配布する練習問題を解き、間違えた問題の要点をまとめる。      | 片貝    |
| 7  | 腎・泌尿器系疾患患者の病態と看護支援                             | 講義       | 予習：テキスト[8]腎・泌尿器の腎・泌尿器系の症状とその成り立ちを調べる。<br>復習：血液透析患者のアセスメントと看護をまとめる。        | 片貝    |
| 8  | 運動器系疾患患者の病態と看護                                 | 講義       | 予習：テキスト[10]運動器の大腿骨頸部骨折の病態を読み、わからない言葉を調べる。<br>復習：大腿骨頸部骨折術後患者に対する生活指導をまとめる。 | 石井みゆき |
| 9  | 脳神経・感覚器系疾患患者の病態と看護支援①<br>症状とその看護               | 講義       | 予習：テキスト[7]脳・神経の脳神経系の症状とその成り立ちを調べる。<br>復習：脳神経系の症状に対する看護をまとめる。              | 千木良悦子 |
| 10 | 脳神経・感覚器系疾患患者の病態と看護支援②                          | 講義       | 予習：脳血管疾患の病態を読み、わからない言葉を調べる。<br>復習：脳血管疾患急性期患者のアセスメントと看護をまとめる。              | 千木良   |
| 11 | 消化器系疾患患者の病態と看護支援①<br>（グループワーク）                 | 講義<br>演習 | 予習：テキスト[5]消化器の大腸がんの病態を読み、わからない言葉を調べる。<br>復習：大腸がん術後患者に対する生活指導をまとめる。        | 石井    |
| 12 | 消化器系疾患患者の                                      | 講義       | 予習：テキスト[5]消化器の消化器系の症状とその  | 石井    |

|    |                                   |          |  |    |
|----|-----------------------------------|----------|--|----|
|    | 病態と看護支援②症状とその看護                   |          | 成り立ちを調べる。<br>復習：消化器系の症状に対する看護をまとめる。  |    |
| 13 | 循環器系疾患患者の病態と看護支援①                 | 講義       | 予習：テキスト[3]循環器の心不全の病態を読み、わからない言葉を調べる。<br>復習：心不全急性期患者のアセスメントと看護をまとめる。                        | 片貝 |
| 14 | 循環器系疾患患者の病態と看護支援②症状とその看護（事前学習型授業） | 講義<br>演習 | 予習：テキスト[3]循環器の循環器系の症状とその看護を調べる。<br>復習：授業で配布する練習問題を解き、間違えた問題の要点をまとめる。                       | 片貝 |
| 15 | 性・生殖器系疾患患者、アレルギー・膠原病患者の病態と看護支援    | 講義       | 予習：テキスト[11]アレルギー 膠原病 感染症の全身性エリテマトーデスの病態を読み、わからない言葉を調べる。<br>復習：全身性エリテマトーデス患者のアセスメントと看護をまとめる | 片貝 |

## 5. 成績評価の方法・基準

定期試験（受験資格は3分の2以上出席した者）100%，平常点で総合的に評価する。

成績評価は、「2.学修の到達目標」に示した評価観点ごとに、ルーブリック評価とする。尚、ルーブリック評価に関する詳細は、第1回講義内で説明する。

定期試験の出題範囲および出題方法等は、事前に口頭で提示する。

## 6. テキスト・参考文献

- テキスト：1）浅野浩一郎他 系統看護学講座専門Ⅱ成人看護学[2]呼吸[3]循環器[4]血液・造血器[5]消化器[7]脳・神経[8]腎・泌尿器[9]女性生殖器[10]運動器[11]アレルギー膠原病 感染症 医学書院 2022
- 2）永井由巳他 ナーシング・グラフィカ EX 疾患と看護⑥眼/耳鼻咽喉/歯・口腔/皮膚 メディカ出版 2022

## 7. 準備学習に必要な時間、又はそれに準じる程度の具体的な学習内容

授業計画の1回の授業範囲および事前事後学修（学修課題）について、最低90分の予習および最低90分の復習を行うこと。

「人体の構造と機能」「疾患の治療と看護」などの授業で学習した知識を必要とする。

## 8. 受講上の留意事項

授業中の私語や授業に関連しない行動は、平常点として評価対象とする。

授業時間開始後に、教室の入室および退出を無断で行うことは慎むこと。

## 9. 課題に対するフィードバックの方法

定期試験終了後、口頭、掲示またはメールで説明する。

講義時間以外に、随時、メールで問い合わせを受け付ける。

## 10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

必修科目であり、修得できない場合進級不可となる。

## 11. 該当する本授業は、以下の実務経験を活かして実施される

医療機関における看護師としての実務経験を活かして、講義・演習を行う。

